

市では、これまで高浜が歩んできた歴史や人々の記憶を知り、市の有形・無形の資料を整理して後世へ伝えるとともに、今を生きる私たち、そして将来のまちづくりに活かしていくことを目的として、市民の皆さんの協力を得ながら、新たな「高浜市誌」の編さんを進めています。

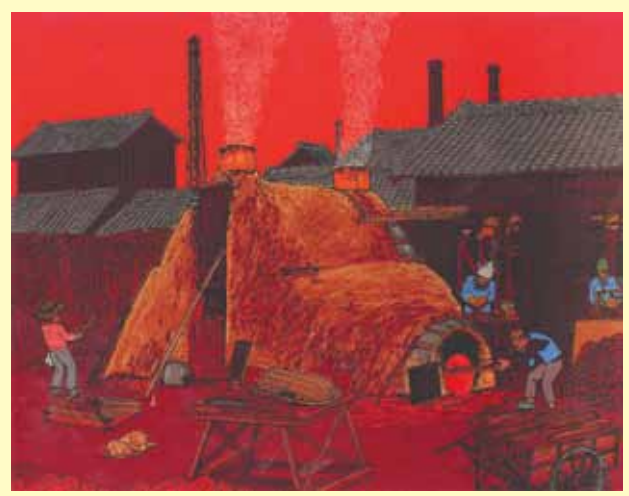
編さん作業の中で掘り起こされた写真や資料などを中心に、まちのこれまでのあゆみや魅力・自慢などを紹介します。「こんなこと知っている!」「他にもこんなことがあったよ!」といった情報がありましたら、お寄せください。

たかはま アーカイブ



—高浜市にある「美しい赤」—

三河を拠点に活動する画家「齋藤吾朗」という名前を皆さん一度は聞いたことがあるのではないのでしょうか。齋藤氏は1947年に西尾市で生まれ、多摩美術大学で絵画を学び、1973年に滞在していたフランスのルーヴル美術館にて、公式にレオナルド・ダ・ヴィンチの「モナ・リザ」を模写しました。当時、「モナ・リザ」の模写はマルク・シャガール以来50年間、誰にも許可されておらず、もちろん日本人としては初めてでし



「三州だるま窯」1991年
〈高浜市やきものの里かわら美術館蔵〉

た。その制作のなかで、「モナ・リザ」がダ・ヴィンチの母と故郷を描いていると考え、自分も故郷である三河の風土と母に連なる人びとを描くべきだと開眼したといえます。

かわら美術館では、開館初年度の1995年に「赤土・炎・夕焼け―齋藤吾朗展」、2011年に「油彩をはじめ50年、画家・齋藤吾朗の作品と収集品―齋藤吾朗の全活動を語ろう、具(カタログ)展」という展覧会を開催しました。齋藤氏が自身の作品に



「高浜のおまん和祭」1995年
〈高浜市やきものの里かわら美術館蔵〉

赤色を多用するのは、パリから帰国後、三河の夕焼けと足元の赤土が改めてとても美しく見え、考えてみれば味噌や赤瓦など三河には赤が多いと気付いたことから、赤を基調として描こうと決めたことがきっかけでした。かわら美術館で所蔵している作品「三州だるま窯」の窯や火、「高浜のおまん和祭」の馬や土は、高浜市にも「独自の美しい赤色」があることを気づかせてくれます。

(下・一)

問合せ先 いきいき 文化スポーツグループ ☎52-1111 (内線330)

高浜を愛し、高浜の良さを学んで高浜でたくましく生きる未来市民の育成
「学校」「家庭」「地域」が一体となって子どもたちを育むため、毎月のめざす生活習慣・学習習慣を皆さんと共有します。

10月
読書に
親しむ子

- 〈めざす年長児〉 えほんをだいすきになります。
- 〈めざす小6生〉 自分に合った本を見つけて、読書を楽しみます。
- 〈めざす中3生〉 さまざまな本を読むことで、自分の世界を広げます。

高浜市が育てていきたい生活習慣・学習習慣育成プロジェクト
いきいき 教育センターグループ ☎52-1111 (内線311)

ポルトガル語は
27ページ

**LEIA A PÁGINA
EM PORTUGUÊS!**

市公式ホームページでは、英語・中国語・韓国語・ポルトガル語の4か国への変換機能を利用できます。

早期配布にご協力ください。